

## 「(仮称) よこはま防災パークの創設(案)」に対する市民意見募集の実施結果について

横浜市では、「(仮称) よこはま防災パーク」の創設にあたり、令和4年11月14日に概要を公表し、市民意見募集を実施しました。皆様から貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。

このたび、実施結果と本市の考え方をまとめましたので、公表いたします。

### 1 市民意見募集の概要

#### (1) 意見募集の期間

令和4年11月14日(月)から令和4年12月13日(火)まで

#### (2) 意見の提出方法

郵送、FAX、電子メール、持ち込み

#### (3) 市民意見募集の周知方法

- ・市ホームページへの掲載
- ・市民情報センター、消防署で資料を配布、配架

#### (4) 全体の意見数

23名の方から、83件のご意見をいただきました。

### 2 意見項目の分類と意見に対する市の考え方

#### 【意見の項目】

項目	件数
(1) 「(仮称) よこはま防災パーク」の創設全般に関すること。	21件
(2) 「(仮称) よこはま防災パーク」の名称や内容に関すること。	12件
(3) 「(仮称) よこはま防災パーク」の広報や活用促進に関すること。	9件
(4) 既存事業の取組に関すること。	27件
(5) その他、防災全般に関すること。	14件

#### 【反映状況と件数】

分類	件数
(1) 「(仮称) よこはま防災パーク」創設にあたってご意見を反映するもの	12件
(2) 「(仮称) よこはま防災パーク」創設にあたって積極的な意見や評価をいただいたもの	8件
(3) 「(仮称) よこはま防災パーク」創設に対するご意見等で、今後の参考とさせていただくもの	22件
(4) その他、防災全般に対するご意見等で、今後の参考とさせていただくもの	41件

### 3 ご意見と本市の考え方

各意見の要旨とその意見に対する本市の考え方及び反映状況は次のとおりです。

(1) 「(仮称) よこはま防災パーク」の創設全般に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>ウェブサイトを受講できるよこはま防災パークの創設については賛成。</p> <p>家庭防災員研修もこれで受講できるようにしてほしい。一方、パソコンを使えない方に対する対応は必要で、すべてをウェブに移行するのはよくない。</p>	<p>「(仮称) よこはま防災パーク」のコンテンツを既存事業に活用していきます。</p> <p>また、これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。</p>	(1)
<p>Web 研修学習については、現代社会に沿っているので取り入れる事は流れだと思えます。若者はスイスイとこなす一方でネットが得意で無い人もまだまだ沢山居ます。私もそうです。こぼれの無いように並行して受講や取組がもっと身近に出来たらと思えます。</p>	<p>これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。</p>	(1)
<p>消防職員が地域・職場・学校での防災訓練で指導した人数の減少 2019 年は約 76 万人であったが、2021 年は約 53 万 5 千人に減少した（出所；タウンニュース戸塚版 12 月 1 日 No.911）減少はコロナ禍のため、減少したものといえる。いろいろなどころでも減少している。減少したからと言って会場での講習会をやめるのはまずい。コロナがなくなったら復活するものと思われる。</p>	<p>これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。</p> <p>そのうえで、時間や場所にとらわれず、身近に防災を学べるコンテンツを用意することで、様々な手法により一人ひとりの災害への備えが進むように取り組みます。</p>	(1)
<p>大きな災害が今起きた時に自分が今どう動くか正直分かって無い人が多いと思えます。</p> <p>隣組の連携の見直しやマップの見方など小さな組織に落として実際の訓練も必要なのかな？とも思いますが自治会との連携そのものが伝わってこない。</p>	<p>これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。</p> <p>そのうえで、時間や場所にとらわれず、身近に防災を学べるコンテンツを用意することで、様々な手法により一人ひとりの災害への備えが進むように取り組みます。</p>	(1)
<p>ツールとしての「(仮称) よこはま防災パーク」はこれで良い。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p>	(2)
<p>「よこはま防災パーク」の創設の趣旨には、賛同致します。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p>	(2)
<p>コロナ禍による状況が続くこと、少子高齢化が速いスピードで進むことを考えると当然のことと思えます。早急にすすめて下さい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p>	(2)
<p>コロナ禍等の影響を受けている現在の社会にとって、Web サービスによる学習方法は良い方法だと思う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p>	(2)

(1) 「(仮称) よこはま防災パーク」の創設全般に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
ONLINE 上で体系的に学習できることはたいへん良いと思われま	ご意見ありがとうございます。	(2)
「(仮称)よこはま防災パーク」の学習内容については現状の【家庭防災員研修】内容と概ね同一と思われるので良いと考え	ご意見ありがとうございます。	(2)
ウェブサイト上から自由に学習出来る様になるのは便利でとても良いと思います。又実技もテストを修了すれば実施していただけるので実技を学びたい方にも応えられていると思	ご意見ありがとうございます。	(2)
今回の創設案にはおおむね賛成です。特に頭の柔らかい子どもにはいい学習になると思います。「効果確認テスト」も「実技講習」も小学生高学年になれば問題ないかと思	ご意見ありがとうございます。	(2)
災害への備えで必要な知識や技術を気軽に学べる方法として、ウェブサイトで学習というのは、とても便利だと思います。しかし、インターネットを使わない方もいらっしゃるの	これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。 いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)
自主活動で、消防署の方や区役所の方に実際に講習していただくのは解りやすく好評でした。知識を得て、実際に訓練して行動することによって身につくと思	これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。 いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)
WEB だけでは、関心があっても、パソコンがないインターネットがないと、参加できません。若い人に関心を持ってもらうためにはスマホからのアクセスや、知りたいことが、双方向でつながることが必要。高齢者、障害のある人にもわかりやすい方法を考えてほしいと思		
一人ではできないから、助け合える仲間が欲しいと思		
自助から共助へどのようにしていくか考えるべき時に来ていると思		
一握りの達人より、多くの方が自分のこととして、災害に備えることができるように学べる機会を求めて欲しいです。また話し合える関係が欲しいです。人のつながりはWEB だけではできないと思		

(1) 「(仮称) よこはま防災パーク」の創設全般に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>自主学习について：ウェブサイトから自由に学習できる。</p> <p>今回の構想の内容を拝見しますと、テキストからの研修だけではあまり身につけやすいとは思えない。やはり実際のお話しをお聞きすることが必要である。年代によっては、パソコンの操作になれていない方もおられる（中高年齢。特に女性の方）。20 歳代～50 歳代は操作ができるとおもう。小生の年代でも大学のクラスの友人で 50 人中、20 人はパソコンをもって操作はできるが、30 人はパソコンをもちあらず、携帯電話のみが多い。FAX は設置しているスマートフォン、携帯を使用するひとはおられるが、通信費がかかるので、どのくらい自主学习の方がおられるか疑問。パソコンをお持ちでない方も結構おられます。男性で平日は働いている方が多いため受講は不可。土曜日勤務の方がおられたが。日曜は講習会がないため。家庭防災員に任命されても受講できない場合もあった（この場合はオンラインの「受講しかない」）。</p>	<p>これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(3)
<p>家庭防災員会では、AED 訓練の他、炊き出し訓練、スタンドパイプ式消火器操作訓練、災害に関する講演会も行っていました。消防署で同等のリアルな訓練が体験できれば良いです。</p>	<p>AED 訓練や初期消火器具の取り扱い訓練、防災講話など、これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、地域のご要望に応じて今後も実施します。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(3)
<p>横浜市では総務局地域防災課も、研修などを行っており、ウェブやアプリ活用も始めています。狙いや住み分けなどを話し合っ、進めてほしいと思います。</p> <p>大地震の危険が迫る中、担い手の高齢化も進んでいます。より若い世代の中から新しい担い手を育てることは急務です。ウェブの活用は一助になると思いますが、具体的な担い手の育成については不十分です。地域防災課とも連携し、多くの地域の防災の担い手を育てる事を考えていただきたいと思います。</p>	<p>「(仮称) よこはま防災パーク」は、関係部署と連携して制作していきます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。</p>	(3)

(1) 「(仮称) よこはま防災パーク」の創設全般に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>個人的な話ですが、ある小学校の4年生に対して、地域防災拠点の話をして欲しいとの要請があり、2クラスに40分ずつ防災備蓄庫を案内しながら話をしました。事前の話を先生がしておられたのか、いろいろな質問が出て、びっくりしました。10年以上運営委員長をしておりますが、このようなことは初めてです。</p> <p>災害の際には、中学生や高校生など若手が自然に協力してくれると、相当のパワーが得られるのではないかと考えています。地域防災拠点になっているのは、小学校が主なので、中学校の先生方は、防災拠点のことはあまりご存じないのかなと思います。ただし、自治会の夏祭りの日、防災の集いを一緒に実施した際、副校長が見学に来られました。中学でも防災について考える機会を与えたいとおっしゃっておられました。家庭防災員制度なども同様かと思えます。コンテンツができれば、小学校、中学校で少しは閲覧してもらうなどの工夫も必要かと思えます。</p> <p>なお、横浜市危機管理室でも防災学習コンテンツを作成しておられますので、そちらとの整合性確保をお願いしたいところです。</p>	<p>「(仮称) よこはま防災パーク」は、関係部署と連携して制作していきます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。</p>	(3)
<p>私は全くパソコン、スマートフォンを扱えない者としては自治会で運営していただきある程度人数を集めて、年間を通じて開催されればと思います。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(3)
<p>効果確認としての実技講習においては横浜市民防災センターや消防署まで出向く熱心な人がどの位いるのだろうかと思う。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(3)
<p>内容「ア」／「イ」から「ウ」に進む人材をどのようにして増やすのか検討が必要。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(3)

(2) 「(仮称) よこはま防災パーク」の名称や内容に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
「よこはま防災パーク」だと、現実にあるのかネットなのか 区別がつかない。	いただいたご意見も踏まえ名称は「よこはま防災 e-パーク」とします。 「e」とは、エレクトロニクスの略で、「電子的な」「ITを利用した」「インターネットの」という意を表しています。	(1)
名称について、リアルなパークに誤解される事から「よこはま防災 WEB パーク」「よこはま防災 NET パーク」よこはま防災 ONLINE パーク」とかはどうか	いただいたご意見も踏まえ名称は「よこはま防災 e-パーク」とします。 「e」とは、エレクトロニクスの略で、「電子的な」「ITを利用した」「インターネットの」という意を表しています。	(1)
コンテンツを一度作って終わりにしないでほしい。しっかり最新のものに更新してもらいたい。	コンテンツについては適宜更新していきます。	(1)
実技講習を受け、効果確認テストを受け合格すれば、修了証を授与必要である。	実技を修了された方に、修了証を発行していきます。	(1)
「(仮称)よこはま防災パーク」の創設に合わせ【家庭防災員研修制度】の廃止及び【家庭防災員】の新規募集は行わないとのことですが、折角防災パークで受講した方々への認定証等は発行しないのですか。若いお母様方等は受講後の『家庭防災員研修修了証』『普通救命講習修了証』を受け取り喜んでいきます。 ⇒名称が変わっても良いので認定書の発行を考えてください	実技を修了された方に、修了証を発行していきます。	(1)
まず「よこはま防災パーク」という名称に違和感を感じる。公園で遊びながら防災を学ぶという趣旨かもしれないが、防災を甘くみてはならない。名称を変更するべき。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)
動画視聴→確認テスト→実技講習の流れは良い。ただ、これで終わりではなく仮名として、「よこはま防災士」などのライセンスを与えるべき考える。BLS コースなどの設けて、資格制度にするべきだと思う。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)
子ども向け取り組みとして、定期的（月毎、四半期毎など）に防災に関する課題を出し、一定期間後、課題の解説などをオンライン会議（zoom 等を使用）で実施してほしい。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)
(仮称)よこはま防災パークの創設に大賛成です。私は小学校地域防災拠点運営委員会の実行委員長を拝命しています。発災の際の防災拠点の開設・運営について、具体的・実践的なノウハウの習得の機会が重要だと感じています。今年は防災ライセンスリーダー研修会に参加させて頂き、貴重なノウハウを学ぶことが出来ました。同様の研修に WEB 上で参加出来れば、地域の防災体制をより強化出来ると思います。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。	(3)



(2) 「(仮称) よこはま防災パーク」の名称や内容に関すること

ご意見	本市の考え方	分類
<p>道路や雨水排水溝が整備され、ありがたいですが、地中に埋まっている下水道が川につながっているのを知らないのか、意識がないのか、ゴミを押し込むのを見る事がある。大雨・豪雨の内水被害も増えているので、家庭の台所から下水道・川までの水の流れを学べると良いのではないかと思います。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。</p>	<p>(3)</p>
<p>WEB 上での防災資料は、東京消防庁などにもありますね。うまく連携活用できれば良いと思われれます。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	<p>(3)</p>
<p>私が住んでいる公営団地は単身者＝高齢者＝女性というある程度、特殊な事情があります。配信サービスを提供されるにしても 12 階の建物、高齢者、女性といったある程度、事情に即した動画を作成していただければと思います。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	<p>(3)</p>

(3) 「(仮称) よこはま防災パーク」の広報や活用促進に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
この制度は、任意ではなく横浜市内の事業所が積極的に受講できるように働きかけて欲しい。	事業所には、立入検査等の機会を捉え、積極的な活用を促します。	(1)
今回の意見募集も地域住民になかなか周知されず、いつも感じることだが消防関係の広報は、興味を持たれにくいので、今後もより一層の頑張りを期待したい。	子どもから大人まで幅広い世代で活用していただけるように、様々な機会や媒体を通じた広報に取り組みます。	(1)
PR が少ないと皆様に周知されないと思うので、受講促進をしっかりと頂き、ご年配の方への配慮の方法も考えて頂ければと思います。	子どもから大人まで幅広い世代で活用していただけるように、様々な機会や媒体を通じた広報に取り組みます。 また、これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。 いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(1)
職場を退職した高齢者の立場から私見を述べさせていただきます。「ウェブサイト上」「コンテンツ」「ホームページ」「メールアドレス」等等、普段年配の私には使わない言葉が並んでいます。正直な話、理解不能です。その言葉の意味から理解しないと、先(学習)に進めません。結果として、高齢者は「自由に学習」できなくなる人が出そうです。 高齢者でも大部分の人は、スマホを持っています。スマホで学習できるのでしょうか。パソコンを持っている人は、パソコンで学習できるのでしょうか。学習方法を町内会(自治会)やマンション管理組合等で教えていただけるのでしょうか。そうしていただければ、頭の体操を兼ねて、防火防災の学習ができると思います。	わかりやすいデザインや構成となるように工夫していきます。 いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)
小学校や中学校、高校などに「横浜防災パーク」を周知させたり、子どもを通じてその保護者にも興味を持ってもらえるような宣伝をしたり、確認テストの進捗によって市内で色々なサービスを受けられたり出来たらいいんじゃないかと思っています。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)



(3) 「(仮称) よこはま防災パーク」の広報や活用促進に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
募集がなくなったら web 申込みする人が減るのでは？	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)
『パソコン・スマホなどの操作が出来ない。防災について興味がない人達』には Web サービスが視聴出来ない。これらの人達に対しては、どのような形で広めていくのか知りたい。	これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。	(3)
今回の防災パーク構想は、時代の流れかとも思いますが、コンテンツだけを充実してインターネットに置いておくだけでは、なかなか閲覧もままならないと思います。若手の現役世代は仕事で忙しいでしょうし、高齢者は動画などを見る環境も持ってない人もたくさんいます。携帯で見るとデータ容量が多いので通信費がかかるので、Wi-Fi 環境が必要です。一方で、こども世代は、YouTube ばかり見ているので、これを何とか防災コンテンツを見させるように仕向けることも寛容です。	子どもから大人まで幅広い世代で活用していただけるように、様々な機会や媒体を通じた広報に取り組みます。 また、これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。 いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)
私の自治会では、輪番性を採用していますのでその年の役員の高齢化が進んでいけば「家庭防災員」を出すことが出来ません。去年は担当者無しでした。そんな状況でしたが今年は役員の交代にも関わらず連続して役員を引き受け家庭防災員になりました。オンライン研修は、自由な時に研修出来るので大変有意義な方法と思います。しかしそれはインターネットに精通した人に限られ高齢者の受講は厳しいでしょう。オンラインを手取り足取りで教えてもらえる人が横に居れば良いのですが。(スマホで画像や文字を見るのは大変疲れるでしょうインターネットを接続したパソコンを持っている人がどのくらいいるのでしょうか)座学で受けられる研修が無くなれば高齢者が多い自治会では応募者は減少するのではないのでしょうか。	これまで地域に出向いて行っている防災訓練会等は、今後も実施します。 いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(3)

(4) 既存事業の取組に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>なによりも大事なことは、高齢化等の社会構造の変化から、家庭防災員のみならず家庭防災連絡員のなり手の減少や固定化という課題が根底にあり、家庭防災員制度そのものの見直し、あり方再検討、方向性を明らかにすることが先ず第一に必要と考えます。⇒そうでないと、ツール化により何も解決しない。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>今年家庭防災員の連絡員をしています。創設の背景にあるように、私の町内会でも高齢化や共働き世帯が多く家庭防災員の選出が年々難しくなっています。</p> <p>私の町内会では小学生保護者から家庭防災員を選出しているのですが、共働き世帯でなくてもお子さんが小さく防災訓練に参加しづらかったり、講習会にも参加しづらい現状もあります。</p> <p>来年度の新規家庭防災員の募集はなしにして、ウェブサイトから自由に誰でも学習できるような仕組みになる事を願います。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>家庭防災員の活動がなくなると隣の自治会がどんな事を行っているか情報交換の場が無くなる。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>募集がなくなったら各自治会の家庭防災員の役がなくなる。家庭防災員の活動がなくなる。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>家庭防災員制度は、少子高齢化が進む今後について機能しない状況にあります、当地域では、家庭防災員の年齢が80歳を候えている方や既にお亡くなりになった方、委嘱されたか否か分からない方など家庭防災員としての活動を行うことができない状況にあります。もともと「自らの家庭を自らの手で守る」ことを目的として、組織化せずに運用していたので無理もないことです。少年消防クラブと同じで良いのではないのでしょうか。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)

(4) 既存事業の取組に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>現在の家庭防災員の役割は家庭だけでなく、共助の考えのもと地域住民の防災ネットワークとして活動をしている。多くの学びを実生活に生かすためには、地域との繋がりがとても大切で必要だと思う。それが来年度から自治会推薦の新規募集が中止になることは、人員の回転が無くなり、さらには研修会等の参加活動にも支障が生じる。更なる検討をお願いしたい。</p>	<p>いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>家庭防災員の位置づけがよくわかりません。組織的な役割でなく、あくまでも地域における防災活動を支える活動家個人を育成していくことと思います。その動機付けを行うにはウェブが有るからそれを見て。では初めての人はアクセスしないのではと思います。やはり、グループを作りその中に新しいメンバーを加えて行く方が災害時にも有用な人材を確保できると思います。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>小生の属する緑区鴨居の家庭防災員会の活動もそれなりに町内で役に立っていると思われます。参加者の新規募集を止めると、活動は順次下火になりいずれ消滅します。及び維持するために活動資金の確保が必要です。現在の家庭防災員会が無くなるのは勿体ない気がします。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>文中に新たな家庭防災員の募集を行わないとあります。家庭防災連絡員の募集も行わないという事でしょうか？            そうであれば、私の所属している連合自治会では各自治会から選出された19人の家庭防災員組織があり連合自治会防災訓練時(400名程度参加規模)の三角巾指導、救命救急訓練(AED+胸骨圧迫)等の活動を行っています。            来年度いきなり家庭防災連絡員の新規募集を止められると連合の家庭防災員組織が消滅してしまいます。1年間の経過期間を取っていただければ来年度中に連合自治会内での対応策検討・実施が可能です。ご検討よろしくお願い致します。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>家庭防災員制度はこの研修に参加された方が地域自治会等の防災部員や地域防災拠点の運営委員などに就かれる方が多く、地域防災活動の担い手を多数生み出している。その意味では地域防災活動維持の観点から人材育成の制度がなくなる危惧がある。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)

(4) 既存事業の取組に関すること

ご意見	本市の考え方	分類
<p>「よこはま防災パーク」の構想を拝読いたしました。時代に即したデジタルな研修と存じます。ここで思いますのは、「家庭防災員」の存在について、どのような方向に向いていくのかという懸念です。生涯家庭防災員として、自分を守る、家庭を守る、隣近所を守る、とのことで委嘱を受けました。地域の防災リーダーとして、家庭防災員の自治会での部長としてその役目は、今年 90 歳になられる先輩家庭防災員の方から平成 10 年より受け継ぎ、その折、「家庭防災員は一生だからできることは手伝う」とのお言葉をいただき、他の方々も含めていまだに活動に参加して下さっております。当自治会は、法人格を取得しており、その会則には家庭防災員による家庭防災部の存在も明記し、地域住民の皆様にも存在を明らかにしております。活動については、消防署の皆様にもたいへんなお力添えをいただき、連絡をとりながら進めて参りました。少し例をお示ししますと、・自治会での防災訓練および子ども防災訓練。消防出張所と共に進めている「本陣フレンドシップ・デー」・東日本大震災を忘れない福島訪問、支援。災害時要支援者見守り家庭訪問。他、家庭防災員として企画、実行しております。共に活動している皆様も家庭防災員を中心としております。地域の防災・減災活動に携わる家庭防災員の名簿を整え、自治会活動を行ってきたことを、今後はどのように進めてよいものか困っている所です。インターネットを通して誰が、どのように防災・減災を学んでいるのか自治会としての把握、まとめができない部分が生じるかと存じます。横浜市独自の素晴らしい住民目線の活動である家庭防災員の灯をともし続けて頂きたいと切に願ひ本文をご送付申し上げる次第です。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	<p>(4)</p>
<p>自治会内では、家庭防災員連絡会の担当は、他の行政職と同等に扱っており、自治会の代表も務め、連絡会で他のメンバーとの情報や経験の交流は大変有意義なものになっています。名称、活動資金を行政が支援することは、自治会では重要と考えます。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	<p>(4)</p>
<p>今回の意見募集は、市民に知らせるべき事を知らせず（説明せず）、行政側の都合のみを優先した全く片手落ちの意見募集であり、掲題の創設案と家庭防災員制度の見直しを並列して意見募集すべきものである。</p> <p>上記に述べた通り不十分な市側の案については反対するものである。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	<p>(4)</p>

(4) 既存事業の取組に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>より多くの人に防災の知識を広めるために WEB 上に動画のコンテンツを作ることは良いことだと思いますが、それだけでは足りないと思います。家庭防災員の毎年のマニュアルや講習会は意味のあるものだったと思います。</p> <p>参加者が少ないといわれますが、募集方法を町内会の推薦だけでなく、学びたい人を広く募集することと、スキルアップ研修をその年の講習会を受講した人に限定するのではなく、今まで家庭防災員の受講した希望者にしてほしいと思いました。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>一度、推薦を廃止すると。本制度は衰退していくことも予想される。今迄行ってきたことが無駄になる。よって家庭防災員の新規募集を行わないこととするのは望ましいとは言えない。今回、「家庭防災員の新規募集を行わないこととする」という本表現が一人歩きしており、現在の家庭防災員にとって、気分を害している。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>横浜市からの募集がなくなったら自治会での活動が無くなる所が多いのでは。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>家庭防災員研修に関して、自治会・町内会への推薦はやめて、誰でも受けられる制度にするべき。推薦された人しか受けられないのは門戸が狭すぎる。推薦されて受講する以上、自治会・町内会への還元が求められるが、そこまで求められるのは負担である。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>旧態依然とした仕組みの見直しも提案いたします。当地域には経験数十年の「家庭防災員代表」の方がいらっしゃいます。各自治会に対して、強制的に家庭防災員研修に参加する名簿の提出を求め、代表の名のもとに各種の会議・イベントに召集を掛けるものですから、折角応募してくれた家庭防災員からは大変なクレームを頂いています。</p> <p>あくまでも各自治会から自主的に家庭防災員研修に参加して下さる方々の主体性を尊重して頂ければ幸いです（きつい表現で申し訳ありません）。今後とも地域一丸となって防災体制の強化に努めます。変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)



(4) 既存事業の取組に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>50年以上の歴史ある制度を継続していただける方々には、消防署として活動の支援に努めてまいります。との記述ですが、具体的にどのような支援を考えているのか教えてください。家庭防災員自主活動制度はどうされるのかをお聞きしたいです。</p> <p>西区では家庭防災員地区連絡員制度を今後も継続していく予定です。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>「引き続き、家庭防災員の活動を継続していただける方々には、消防署として当該活動の支援に努めてまいります。」と記されているが、具体的にどのような支援を行っていくのか全く説明されていない。また、いままであった家庭防災員自主活動補助金についても同様である。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>家庭防災員は毎年交代のため、年に1回～2回だけの研修ではなかなか身につかないように思います。任期は2年にすべきである【1年目は研修、2年目は実施訓練】。</p> <p>以前から消防署で開催する代表者会議でも何回もお願いしています。因みに、他の委員もすべて任期は2年となっており、また各町内会で推薦事務を行っている。廃止することはしない方が良いと言える。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)
<p>コロナ禍で、研修会ができず、最後の研修会でテキストを受け取りましたが、年度の初めに、町内会を通じてテキストが配られていたらオンライン研修にも役だったと思いました。推薦が少なくなった原因に、家庭防災員が何をしているのかが、町内会で見えなくなっているように感じました。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>連合町内会の定例会議の時、ほかの部会の委員（例えば、保健活動委員など）は、毎月、正副会長の委員会があり、積極的に町内会にも発信していました。</p> <p>連絡員の代表としては自主活動を企画するだけで、消防署からの連絡はなく、家防員の連絡員の名簿も個人情報保護法のため、頂くのに苦労しました。他の地区がどうしているのかも分かりませんでした。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>家庭防災員制度存続の立場で意見を述べます。家庭防災員には、防災に関する知識を習得し意識を高める事により、地域防災拠点の運営委員や、自主防災組織の担い手を期待しています。ただ、現行の募集時期（12～2月）では、次年度の役割が決まっておらず、受講を働きかけずらく、なかなか受講者が集まりません。4月新体制が決まってからでも申し込み可能なようにすれば、自治会内で新しい担当者への声掛けに繋がります。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。</p>	(4)



(4) 既存事業の取組に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>私の町内会の「家庭防災員」は、現在 40 名ほど在籍しております。どこの町内会・自治会も新規会員の募集に苦慮されていると伺っておりますが、当町内会は、町内会の代表が、毎年『こども会のマザー』の中から何人かを、その年度最後の会議の席にて「家庭防災員」の意義の説明会を開催し、この「資格」を得ることによって将来有効利用できることの必要性を説いております。また、「家庭防災員」になっていただいたあかつきには、将来的には『町内会 役員』を担っていただく上での『町内会への入り口』と位置づけ、こどもさんが高等学校を卒業するのを待って介入するよう 6～10 年先を見据えて考えております。(令和 4 年度には、2 名の方が町内会役員になっていただいております。)</p> <p>令和 3 年度の場合は、マザー(13 名) から 3 名が参加希望され、随時開催されている講習会に出席しております。</p> <p>若い方に、高齢化に担って参加できなくなった先業方の後任として、担って戴く事で、また組織も活性化するものと認識しております。</p> <p>現在、コロナ禍もあって、具体的な活動が自粛されておりますが、活動時には、お揃いの(ピンク色の蛍光色の)『ウインドブレーカー』を着用し、他の自治会・町内会との合同訓練時には、当町内会の 40 名の整列は『目立つ』存在になっております。制服を着用することで一体感が出ることは必然なので、特に災害時のような場合では、効力の発揮が期待されると考えます。</p> <p>当初は、「あんなに派手な色！」との抵抗がありましたが、いざ災害時となれば、周囲から『目立つ』存在にならなくてはならないので、周囲からの意見も取り入れこの色に決めました。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>実感として、今回初めて家庭防災員として研修に参加し、コロナ禍であるためか、出席人数が少ないように思いました。そして働いていらっしゃる方は日曜日しか休みが取れなく参加できない方もいらっしゃいました。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>後方支援として、拠点訓練に参加しましたが防災員にも訓練の日程表を配付しても良いのではないかと。また記録に残すとしても写真より動画の方がいいのではないかと。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)

(5) その他、防災全般に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
今回の取り組みに関し、一部の横浜市内の町内会の意見をお聞きしたとの事であるが、それだけで本制度の取り組み廃止を決めようとするのはおかしい。すべての町内会の意見をお聞きすべきである。	いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。 なお、家庭防災員制度は今後も継続していきます。	(4)
今回「消防署の代表者会議で会議が紛糾した。「10月の連合会長の会議で本件を先に話をしている」こともおかしい。先に家庭防災員の代表に話をすべきである。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	(4)
今回、ホームページの意見募集の実施の文章には「家庭防災員の新規募集を行わないこととする」という本表現が削除された。これは消防局予防課担当者を小生が11月7日午後訪問し、本表現が望ましくない旨指摘しているからであろうか。	今回の市民意見募集は、「(仮称)よこはま防災パーク」の創設(案)に関する意見募集であります。	(4)
大規模地震に関する防災対策は、関東大震災、阪神淡路大震災、東日本大震災発生後に対応策(防災計画)が更新されて来ましたが、市民の間には、まだ過去の防災訓練が離れない。「避難所に行って、炊き出し訓練や消火、救護・救急を行いおにぎりなどの食料を貰って帰る」といった様な方や「避難所に行けばすぐに受け入れてもらえる」と思っている方などそれぞれで行政側の見解と市民の見解に隔たりがあります。また、少子高齢化が進む中で年齢層にも受け取り方の違いが生じていることから、行う側と受ける側の違いを承知したうえで行うことが必要です。例を上げるとスモークマシーンによる煙体験は、年齢層によってはあの程度の煙なら、対応できる知識があれば避難可能と思う方がいます。実際にはあの煙が火災による煙であったとしたら苦しくて冷静な判断ができる状況でないことをご承知のとおりです。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。	(4)
少子高齢化、コロナ禍 在宅避難が必要な状況です。	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。	(4)

(5) その他、防災全般に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>15年前から行っている「ささえ愛カード」のデータによる、防災マップを活用した安否確認は、人命検索や在宅避難時における食料など必要品の配布などに活用されます。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。</p>	(4)
<p>それぞれの地域に知識と経験を持った担(仮称)当指導員の導入も考えてほしい。</p> <p>例えば、防災コーディネーターなどの名前が付いていても1日、20日の研修で覚えた知識が実際にどの程度役に立つか、実際に行わせてみたらエンジン始動もできない現実があった時間をかけて、しっかりとした知識・技術を身に着けた方を養成してほしい。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。</p>	(4)
<p>地域防災は、昭和56年以前と以後とでは建物の消防用設備の適用が異なっていること、更に古い団地等は少子高齢化が進んでいること、住宅環境が異なっているなど、防火・防災に対する条件が異なっているので、その地域の危険要因等や防火・防災力に配慮した指導が必要である。消防の作業服や制服を着て行う防災指導は、市民からすれば疑問を持たない状況にありますが、制服等を脱いで話をすると理解している内容が異なっていることが良くわかります。</p> <p>話をする側の立場としてではなく、話を聞く側の立場として配慮も必要と思います。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。</p>	(4)
<p>横浜市には防災に関する組織が多くあり、いろんな資格が存在していますが、もう少し連携して、これから、必ず起こる災害に備えていくべきではないでしょうか？防災から減災へ、今考える時です。縦割りではなく、すべての行政の部署が考えて欲しいです。</p> <p>色々な部署、役員がばらばらに活動するのではなく、みんな連携していけると良いです。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)
<p>地形により電波が届きにくく、ケーブルTVを利用している地域です。2011年東日本大震災の時は最初の揺れ直後に停電し、ラジオの電波も入らず、すぐに暗くなり、情報が何も判らず不安でした。大災害の時の情報入手方法を体験してみたいです。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。</p>	(4)
<p>自らを守るため、最低限必要なことを小冊子(永久保存版)にまとめたものを参加者に自治会を通じ配付する。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)

(5) その他、防災全般に関すること

ご意見	本市の考え方	分類
<p>私は地域防災拠点の運営委員長を長年やらせていただいております。毎月1回運営委員会を開催して、有事の際の拠点の開設・運営について、議論・準備をしています。毎年、半分以上の委員が交代するので、最低でも2年間従事することを各自治会町内会にお願いしています。現状副運営委員長レベルは5自治会町内会の内、4自治会町内会で2年以上従事している方々なので、防災拠点訓練なども実施できている状態です。家庭防災員の方々も防災拠点訓練(年1回、今年は11月6日実施)には、参加していただいております。ただし、参加内容はご飯の炊き出しの部分だけです。今年から家庭防災員代表に運営委員会に参加してもらっております。以前から家庭防災員の役割について気になっておりましたが、内容調査をさぼっており、今回初めて家庭防災員研修テキストを見てみました。これを見ると防災拠点開設・運営は地震災害の時だけに対して、災害全般の知識と技術が必要であり、ボランティアで従事するのは相当な覚悟が必要であると感じました。1, 2回研修しただけでは知識・技術も身につかないと思います。家庭防災員も毎年交代しているようですのでなおさらです。これは防災拠点運営委員会委員も同様です。ただし、一度委員を経験してもらっていると、有事の際には、支援いただけるかなと思っております。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。</p>	<p>(4)</p>
<p>災害発生予報時・発生時の具体的な行動指針(昼夜別)の策定を提言します。</p> <p>現状は、大地震、大型台風、大雨洪水、暴風雨等の発生予報時及び発生時の市民の動き方は、1 市防災情報 2 区防災情報 3 気象庁防災情報 4 警察庁防災情報 5 所轄消防署防災・災害情報等様々な部署からの警報、注意報、警戒避難情報が出ますが、情報の入手に一般市民は TV ラジオ等のニュース情報・気象情報により、警戒レベル、災害レベルを知ることになります。何時発生するかわからない災害に、昼夜、夜間でも対処に仕方も違うことを念頭に県・市として以下のケースごとに、統一された警戒避難情報とリンクした行動指針を策定する必要があると考えます。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます、関係部署とも共有します。</p>	<p>(4)</p>

(5) その他、防災全般に関すること		
ご意見	本市の考え方	分類
<p>防火・防災教材の細分化（WEB 動画、CD、VDR、冊子等）及び多言語化を提言します（英語、中国語、韓国語、ベトナム語等）①保育園児・幼稚園児向けの防火・防災に関する知識と訓練園の幼児教育の一環に含める。②小学・中学・高校生向けの防火・防災に関する知識と訓練 学校教育の一環に含める。③高齢者・障害者向けの防火・防災に関する知識と訓練高齢者の集い、老人会、敬老会等での教材。④要介護・要支援者及び彼らを抱える家族向けの防火・防災に関する知識と訓練 地域の介護支援センターとの共催</p> <p>上記①～④ 各々に向けた WEB 動画、CD、VDR、冊子等を教育の場へ教材として配付。（要請のあった場合は消防署による実技講習） 県、市の統一された教材により保育園、幼稚園、小・中・高等学校、町内会、自治会、各種事業所に任せられる。防火・防災学習・訓練は各々に任せることにより、より身近に防火防災について全市民個人が考え、もしもの時安全に行動する備えになると思います。更に消防署関係部署の負担も、現在より軽減され、ほぼ全市民で情報提供できる工夫にもなるかと思えます。こちらは、横浜市独自の消防法条例・指針・指導要綱等で掲示すれば実施可能かと思えます。</p>	<p style="text-align: center;">いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。</p>	(4)